

苦手を持つ人たちにとっての『仕事』とは・・・アンケート集計

- ・ 2番目に発表されていた ちはらファームの方の話が心に残りました。親の視点、経営する側の視点をとてもわかりやすく伝えていただき、有難かったです。大学に入学して一番の心配が就労というところも共感できもう少し聞きたかったです。座った場所のせいかわかりませんが3番目の方の話がほとんどうまく聞こえず結婚・就労の両方の話だったのに残念でした。4番目のママ、面白かった!!! 働くママの姿、子どもの成長とからめての就活、とても興味深かったです。家事を子どもたちにするように促すのに「～しなさい」ではなくアルバイト募集の形でできたのはほんともっと聞きたい話でした。
- ・ Aさん Bさん Cさん Dさん 各々のお話の中心が「仕事」で、就労する迄の過程、成長の様子などそれぞれ違うけど、共通するのが「自己理解」が大切だということだと思う。では「自己理解」に到達するには何が必要か、理解者の存在か。
Aさん Bさん Cさんの3人のお子さんすべて学校は毎日行っていた。(体調が悪くても行ったりしていた。) 学校は行くもの、働きに行くものという感覚がある、Dさんのお子さんは不登校。うちの20才の息子は学校がイヤだったので中学校は昼になったら帰るでも毎日学校へ行くというハイブリッドタイプでした。Aさんに息子さんと似ているのか、ネットで友達を作って、ネットでゲーム大会などをして楽しんでます。リアルでは遊んだりしていませんが。食べ歩きも趣味です。今日は色々な話が聞けて楽しかったです。
社会とのつながりは、外で働くことだけではない。上手いかなかった経験や失敗を、本人がどのように消化していくかはわからないのですが、まずは外で人と会う機会が少しでもあるとよいのかなと思いました。今は「就職」を考えただけで悩ましができもちが悪くなるそうです～..くさらず、あせらずすごします。
- ・ 進学という形で就労からの逃避に成功した身なので(笑) 働くってやっぱり大変だよなあ、でもそのうち頑張らんなんよなあ...って思いながら聞いていました。専門職を目指す(ことになっている)ので、自分がしっかりせんなんとか、今までみたいに苦手なこと苦手やなんて言っとれんって思ってたけど、自分の特性は多分ずっと変わらんくて、その中でしたいこととできること、、させてもらえることの折り合いをつけて何とか働けたらいいなあ...と。失敗を恐れて自分を縛っても良いことないし、現実、自分の凸凹も忘れちゃいかんって思いました。
- ・ 今回は、就労や結婚等のお話が聞けて、とても参考になりました。子供はまだ小学生なので、就職、就労、結婚のお話は、とても先の事のように思えてしまいました。ですが数年後に経験することなので、いざ受験、就活の時期になった時に、子供との距離のとり方が難しいなとおもってしまいました。

- ・ 今回は仕事というテーマで、親の立場からお話を聞かせていただきました。支援者という立場で当事者から「仕事」の相談を受けている中で、実はプラス親の仕事に対する考え方であったり、関わりについて相談されることは多いです。もちろん今日のお話のように親は子の心配や応援をしながら、気をつかいながら声かけなどをしていると思いますが、(実際、そうなので...)でも当事者であるおこさんからは...「聞いてください！！母がこんなことを...」「父がもう...」なんていう相談があるのも事実です。・親と子のつながりを保っていける関わりもできたらよいなと改めて思った会でした。
- ・ 先輩お母さんの体験談、いつもはっとさせられる事があります。どうしても心配のあまり失敗しないように...と考えてしまうのですが、大切な体験をうばってはいけないなと思いました。息子が友達に〇〇と言われたから××してみようと思う...と言っているのを、そんな事しても上手くないよ、ムダだからやめよう、と言ってしまったのを思い出しました。帰ったら、やりたいようにやってみたら、と訂正しようと思いました。今日はありがとうございました。
小5の息子の母です。将来に向けてどうなるのか心配がありつつも、「どうにかなるか」と思いつつすごしていますが、日々起こる色々な事に対して振りまわされつつも、これからも見守ってみようと思いました。
- ・ はじめてスピーカーをつとめさせていただきました！ とっても楽しかったし、大人になった姿のお話をたっぷり聞いて、本当によかった♡(◡)♡です。机の配置も、よかったからか、キンチョーしないでしゃべれました。ありがとうございました！
- ・ 大人でも『困ってる』ってなかなか言えないですが、ヘルプを出すことで生きやすくなることを自分で理解・納得できると言えるようになるのかなと思いました。自分の特性シートを就職先へ提出し、インターンシップをして職場からフィードバックがあることで(親からでない他人からの言葉で)自己理解が進んだんだろうなとも思いました。自己理解は大事ですね。何が苦手で何が得意か、客観的に見られるといいな。社会とのつながりは仕事だけではないと改めて感じられました。
- ・ Bさんのお話...大学の支援室の方の存在の大きさ。第三者の方にお任せする気持ちも、我が子の自立を助けることに繋がると勉強になりました。Dさんのお話...社会の事、仕事の事、母(自分)を通して子供たちに伝わると思うと、責任重大と改めて思いました。Cさんのお子さんとは小6の時に会いました。大学で始めた読み書き障害の支援の場に来られていました。ローマ字が苦手で”NIKE”を”プーマ”と読んでいました。読み書きの苦手さが最初の職場での不適應の一因と聞いた当時は胸が痛みました。最近結婚されたのも教えていただき、今日のピアサポートの会では現在の職場で勤続10年をこえ表彰されたとうかがい、安心しました。エルデの会からの現職場での苦手さの説明会への説明者派遣や、苦手さを非開示で同僚に説明できなかったことが退職につながった経験を生かし、自分から困り事は周りに伝えるようになったという、本人の成長が今日につながっていることを改めて感じました。

- ・ 今回は皆さんの話をお伺いできて、大変参考になりました。息子は現在19才で、就労移行支援事業所で職を探しています。本人は来年1月くらいから仕事をするつもりでいて、私はかなり不安に思っていたのですが、失敗も含めてなんとかやっていけるかなと感じました。障害者年金の手続きもするつもりでいます。
- ・ 子供はまだ小学生なので、先のことだと思いつつも、こんなこともあるのかと頭に入れておくことができました。告知のしかたもいろいろあるのだなと思いました。ありがとうございました。ちょうど、子どもが大学を卒業し、仕事につくことに悩んでいたところで、今日の会があることを知り参加させてもらいました。皆さんの話を聞かせていただき、感謝です。私は、子どものことを、皆さんのように理解できてないことが多いと思いました。私の中で、成功してほしいと思っていることが——、もう少しやり直せる、挑戦していてもいいのか...とも思えました。子供と向き合い、様子を見ていきながら?! 見守っていこうと思いました。
- ・ 「どれが正解とはない」その子の特性や受け入れられる範囲で選択していけばよいのだと視野が広がりました。